在佛雑務書類

全

第十類 八 次
一冊
三十五架 上
函

国立公文書館
分類
排架番号
2 A
33-6
387

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

英仏辨務使来翰 全

一簡啓上イタシ候陳ハ今般本邦文部省ヨリ之来翰ニハ
海外留学生改正之儀正院ヘ建言相成其趣意ハ既ニ外国
ニ於テ専門学ニ従事罷在候者丈ケ等留学生ト相定メ其
餘ハ都テ帰朝可為致儀辨務使ヘ相達度トノ趣ニテ不遠
内右之處分ニ可相運之由右之書簡同省ヨリ御一行又ハ
其地辨務館ヘモ来着イタシ候若シ来書無之候ハヽ右写
差出可申候間此段御問合ニ及候也

第十二月廿四日

寺島大辨務使

全権大副使

御中

然者今日當府海上請合會社ヨリ「アデルメント」ト申者當館ヘ罷出去ル西洋十月廿三日同十一月四日両度其御方ヨリ本邦ヘ荷物御差立相成候節ジョイントナショナルバンクノ手ヲ以テ右會社ヘ請合候儀御引合相成候處右請合料百十六磅八シリンク八ペンス今以右海上請合會社ヘ落手不致趣申出候尤モ右金ハ既ニ「ナショナルバンク」ヘ御渡相成候歟御拂相成居候ハヽ請合證書ハ御請取置被成候哉兼知イタシ度候間右手續至急御取調御詳答可有之候依而此段及御掛合候也

壬申十一月廿五日　　辨務書記

全權使節附

書記官御中

追而為念別紙相添候

別紙電信本邦ヨリ来着イタシ候間則御傳達申候御落手
可有之候右電信之趣ニテハ従来之皇暦ヲ一新シ洋暦ニ
應シテ十二月三日ヲ明治六年正月元日ト相改ラレ候様
相覺ヘ依而此段更ニ申進候也

第十二月廿日

寺島大辨務使

全權大副使
御中

岩　木　大　伊　山

十九日長崎出　廿日倫敦着

東京ヨリ之傳信

來ル十二月三日ヲ以テ明治六年正月元日ト相改候西洋之暦法御採用相成候事

使節御中

正院

十一月十二日東京ヲ發
新制之禮服御治定十一月十二日ヨリ實地ニ御用相成可申尤其雛形ハ同月八日之御用便ニテ相送候此段使節ヘ御回達可有之候
倫敦在留寺嶋大辨務使殿

一簡拝啓其御一行御無異御着佛之由定而御勇端之事ト
奉存候偖昨日ロヤールエキスチエンジ、アッシユウラン
スト申海上請負會社ヨリ別紙寫之通兼而本邦ヘ御回漕
相成候荷物海上請負料之儀ニ付書簡差出申候右ハナシヨ
ナルエゼンシーヘ御託シ相成候儀ニハ有之候得共其手續
相分兼候ニ附別ニ返書遣シ不申候併シ此後拙生ノ心得
ニモ相成候儀ニ候間御回漕之手續并ニ箱數海上請負ハ
組高ホ詳細御申越有之度此段及御問合候拝具

壬申十一月十九日

吉田大蔵少輔
清成

特命全権使節

太政官

十二月廿三日附之御書状正ニ落手御申越之趣委細承知
致候右者一同評議致候處事全ク新規ニ出来タ本朝ニオイ
テ古今之例典モ無之ハ勿論将来之規摸ニモ可相成不容
易儀ニ附何レニモ本朝ヘ伺ヒ　天皇陛下之御決断ヲ仰
キ候方可然ト一同決議致候左候上ハ其賞表之品等階級
等及ヒ右ヲ贈リ度トノ趣意ハ畢竟何等ニ出候哉是等之
廉詳細ニ取調候上ナラテハ政府ヘ申立トモ事理徹底不
致候ヨリ自然物議ヲ紛起シ卒ニ彼之好意ヲ傷ノ候様之
事ニ成行候而者不宜候間右於之廉篤ト御取調御申越有
之度尤モ何等之賞表ハ何國之王ニ贈リ何等級之賞表ハ
何國之皇子ニ贈リシ等之事ハ彼ノ政府問合セ候譯ニモ
難至場合可有之其故ハ豫メ彼ヨリ贈ル所之賞表之等級

御中

太政官

品位ニヨリテ我可否之返答ヲ定メ候様被思候而者大ヒ
ニ彼ノ好意ニ背キ候様可相當ト懸念致候間其邊之意味
御差含可成内々ニ而御取調有之候方可然右ニ附賞表被
贈候事ハ我ニ取リ無限光榮ニ而孛國之好意ハ使節一同
深ク感佩萬謝スル所ニ候得共我本国ニ而者全ク新規之
事故萬一誤解致候様之事有之候而者無此上不本意儀ニ
候間不取敢我政府エ申遣シ其上ニ而何分之御答可申入
就而者猶委細之儀御説示有之候得者別而都合宜敷且此
後右等之儀ニ附而者鮫島辨務使エ御書通被下候得者猶
更便宜ニ相成候旨ブランドヲ以テ彼政府ヘ御申入有之
度候且右ニ申述候儀ニ附發輝ト不致廉モ候ハヽ當地マ
テ御出張相成候而モ差支無之候左候得者事情微細ニ相
分リ可申存候呉々モ使節一同ニ於テハ孛國之友誼好意
之厚キヲ感シ且歐洲各國帝王名臣等互ニ賞表ヲ相贈リ
候ハ普通之禮式ニ有之事ハ兼テ熟知致居候得共只々本
國ニオヒテ如何之論相起リ可申哉モ難計ト懸念致候處
ヨリ右様申入候儀ニ有之候旨篤ト了解相成候様御申通
有之度存候右御報申進度孛國政府ヘ可然御申入有之度
併セテ右ニ掲ケ候廉委細御取調之上速ニ御申越有之度
此段御依賴申候也

十一月廿五日　木戸副使

青木周藏殿

書記官

ハルソン事蘇格蘭御随行中御賄被下置候処即今ブルツクスモ居合不申随而同人勤務モ多ク候ニ附引續キ御賄被下置候様仕度奉存候

十一月廿一日

岩倉公
木戸公
大久保公
伊東公
山口公

千八百七十二年第十二月廿一日　羅馬ニ於テ

大日本天皇陛下ノ第一等全権特命大使岩倉公閣下

一簡拝啓仕候拙者儀伊太里國在留公使被申附候ニ附御國ニ者最早罷越不申乍然御使節方弊邦御尋問之御摸様兼知仕次第一旦帰国可致様兼而申附ラレ居候間乍御手數電信機ナリトモ御書状ナリトモ何比弊邦エ御越可相成トノ儀為御知被下度奉願候謹言

ファンドルウーヘン

第十二月二十一日之貴簡落手閣下今般伊太利亜國駐劄
公使御拝命ノ趣恭賀仕候乍然我輩ニ於テハ我國エ御再
行無之儀残念不少候
我輩和蘭國ヘ罷越候時期御報告可申様御書通有之候處
未タ治定不仕候ニ附取極次第為御知可申候

岩倉公　木戸公
大久保公　伊東公
山口公

向寒之砌ニ候処
聖上益御機嫌克被為遊御座恐悦至極奉遥賀候次ニ貴卿
彌御安泰御奉職珎重之御事ニ存候敝職儀も無恙盡職
罷在候間御休襟可被下候然者先日英國駐劄中レーデ
インド申地方之招請ニテ同所巡覧致候処同所ハ于麪
包之製造局并果實種物買賣之大市ニ有之市尹始ノ豪
商之饗應相濟候上ニテ于麪包一箱種物二箱送越候ニ
付英國ニテ船ニ托シ積出置候間御地到着致候ハヽ于
麪包ハ御前ニ被供種物ハ吹上御苑ニ播種相成候様其
筋ヘ御達レ可然御取計可被下候右者折角彼方之好意
ニテ　天皇陛下ニ進呈仕度旨ニ而申来候ニ付此段以
添書得御意置候也

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

十一月廿日

徳大寺宮内卿殿

岩倉大使

太政官

謁見前巡覧ヶ所

ルーウル　展覧場

ルキサンブール　展覧場

キュルキー　展覧場

本草禽獣園

ノートルダム　大寺院

市場

乳児養育所

貧民学校

玻璃庫

青銅器製造所

銀造食具

巴里府製器所四ヶ所

巴里城砦

謁見後巡覧ヶ所

議事院

ツヱルサイユ宮殿

佛国書庫

佛国銀舗

造幣寮

兵庫

屠場

天臺

下水

水道

郵便役所

電信局

烟草製場

佛國大學校

學校

製鐔場

製陶場

聾唖院

盲院

大砲展覧場

那破侖廟

兵屯

ツオンテイニブローミ宮殿
セントツアルリヤン砦
羅華候所

岩公　木公
大公　伊公
山公

今般工部省ニ於テ工學寮御創立相成同寮ニ雇入ルヘキ教官五名英國ニ於テ撰挙スヘキ旨歸官ヘ被命已ニ倫敦ニ於テ歸官知己ノ者両三名ヘ相托シ置キ方今専ラ撰詮中ニテ不日取極リ候上ハ直ニ本邦ヘ差遣シ申度然ルニ同行ノ者無之候テハ到着ノ上彼是不都合モ可有之ニ付二等書記官林董儀格別御用無之候得ハ歸國被仰付同人エ同行申付度同人儀ハ英語ニモ致熟達居候ニ付帰朝ノ上工學寮ニ於テモ必用ノ人物ト奉存候右伺ノ通リ許可ヲ得候ハヽ歸官本務ニ於テ大ニ仕合可申此段各位閣下ノ高案ヲ仰キ申候也

工部大輔伊藤博文

岩倉大使公
木戸副使公
大久保副使公
山口副使公
各位閣下

書記官

一　百二十磅　英貨

右者無振費用打嵩目下差支候ニ付此先一ヶ月半月給引
宛拝借奉願度返納方之儀者大蔵省御規則通相納可申候
此段奉願候也

正月　佐々木高行

大副使
御中

御聞届相成可然奉存候

大久保公
伊藤公

私儀當地御用相濟候ニ付来ル十九日馬塞里出帆翔度海
通航帰國可然筈ニ御座候条帰路旅費御渡相成度奉願候
以上

正月五日

大原令之助

大副使閣下

願之趣承届候田中戸籍頭ヨリ可被請取事

大久保公　花押

伊藤公　博文

亜米利加合衆國士民外臣サイルス、ウエスト、フ井ール
ド誠恐誠惶威權赫奕タル日本
聖天皇陛下ニ奏ス外臣曽ツテ太西洋ニ所通ノ電線ニ竭
力従事シ其業成リテ欧米ノ間声息相應シ之ヲ更ニ推
シ廣メテ東洋西洋ノ間ニ通達セント欲スルニ依リ今
陛下ニ上陳シテ電線ヲ米國ノ西濱ニ沈メ之ヲ日本ノ
東岸ニ揚ケントス誠ニ此挙成就ノ上ハ電線地球ヲ一
環シテ間断ノ地無ラントス
當時製造セル処ノ電線ハ外臣学問并實験ヲ以テ其便利
ニシテ害ナク其長サ三萬余里ニシテ失悞ナキヲ知ル
ニ依リ今更ニ其製造ノ完備セル事ト之ヲ世界萬國ニ
通シテ迅速ナル事ヲ辨論スルヲ要セス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

海底ノ電線若シ不虞ノ損害ヲ得ルトキニハ之ヲ修理スル
ニ難カラス是ハ實践シテ所知ナレハ右電線ノ大小ヲ之
ヲ沈ムヘキ海底ノ深浅ニ應シテ製造スルニ於テハ幾
萬里ノ遠キトモ之ヲ施用シ能フヘシ敢テ一定ノ限界
アル事無シ

合衆國ニ於テハ現ニ貴國ト交ル処ノ友誼ヲ益固クシ且
ツ貿易ノ利ヲ益進メンカ為メニ太平洋底ニ電線ヲ沉メ
ント欲スル宿望アル事ハ外臣ノ能ク知ル所ナリ

外臣曽ツテ合衆國ノ政府及議員出頭ノ数名ト書束ノ往
復ヲ為シ其ノ此事ヲ賛成スル意アルヲ知レリ因ツテ
今他国ニ於テ此挙ニ就キテ要用ノ約束アル時ハ我政
府及議員ハ必ラス之ニ同意助力アル事疑ヒナシ

米國ト日本トノ間ニ電線ヲ通シ之ヲ實際ニ施行スル方
法ヲ練熟ノ人ニ質問シ其事ノ成就必然ナル画著ヲ得
タリ

右電線ノ長サハ五千〇八十一里ニシテ太平洋中一二ノ
島ヲ撰ンテ之ヲ其処ニ安シテ線ノ太タ長キヲ休マシ
ムヘシ

合衆國ノ西濱ニ到リテ右太平ノ電線ヲ米國ノ諸線ニ接
シテ日本ノ交通ヲ便ニシ夫ヨリ之ヲ欧洲ニ傳ヘテ世
界ノ要線ト合スヘシ

此大業ヲ起スニ其製造ト之ヲ排置スル事ニ至リテハ之
ヲ龍動ノ電機建造會社ニ委托スルニ如カス此會社ハ
已ニ大西洋ノ電線ヲ敷キ今又タ他線ヲ通スル事ニ盡
カシ英国ト埃及印度支那濠地利ノ電線モ其手ニ成リ
名声天下ニ聞ユル者ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

日本并合衆國ニ斯クノ如キ通信ノ業ヲ起シ其便利要用ナル事ハ聖慮ノ能ク料リ賜フ処ナルヘシ

右電線ノ價ハ之ヲ布ク里程ヲ測定セシ後ニ非サレハ之ヲ審知ス可ラスト雖トモ此ノ大業ニハ至良至堅ノ品料ヲ用ヒサルヘカラス

之ヲ熟練ノ人ニ聞キ之ヲ已ニ成功セシ電線ノ實驗ニ徴スルニ斯ノ如キ大業ハ大ニ貿易ノ便利ヲ長シ随ッテ通信ノ數ヲ増スコ勿論ナリト雖モ成就ノ後數年ノ間世上利ヲ射ル徒ノ為メニ利實タルニ足ラス爰ニ於テ此事ニ関係スル処ノ政府ノ助力ヲ乞フニアラサレハ右叢業ノ財本ヲ募リ能ハス又タ必須ノ失費ヲ補ヒ能ハス

是故ニ外臣今貴國政府ト合衆國ノ政府ニ助力ヲ仰キ願フテ此大業ヲ發起セントシ且又先年電線ヲ布キタル時ニ事ヲ倶ニセシ僚友ニ諮詢シ而メ時日ヲ費スコ少クシテ所望ノ目的ヲ達スヘキ良法ヲ撰ミ之ヲ謹ンテ聖聴ニ呈ス

第一此ノ所企ノ太平洋電線ハ電機ノ事務ニ熟練シテ其責ニ任スヘキ人物ヲ精撰シテ會社ヲ編シ此會社ニ於テ之ヲ建布シ而メ日本政府并合衆國政府ニテ之ヲ允准シ之ヲ管轄スヘシ

第二両國政府ニ於テ士官ヲ命シ特ニ此ノ會社ノ司長ト為スヘシ

第三電線ノ路程其起源并盡処ヘ駐所及其他要用ノ設置ハ両國ヨリ所命ノ司長共同兼允ノ上之ヲ決定スヘシ

第四右財本ハ英貨三百万磅ト定メ其六分十八萬磅ヲ以

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records http://www.jacar.go.jp/

テ一年ノ利足ト為シ而ノ電線開業ノ上ニテ會社収入
ノ金高ヨリ諸雜費ヲ引キ去リ全クノ利益右六分ニ至
ラサル時ハ其不足ヲ両國政府ヨリ補償スヘキ證言ヲ
要ス

第五 一年ノ利益六分以上ナル時ハ其六分ニ餘レル者ノ
半高ヲ積置キテ株主ノ財本ヲ取戻サント欲スル者并
株主及政府ノ曽ツテ補ヒシ処ノ不足ヲ償フ備金ト為
スヘシ

前文ニ所陳ノ助力ヲ得ルニ於テハ外臣三年ノ内ニ電線
ヲ通シ完フスヘシ

合衆國ニテ名望アル士民ニテ外臣ト力ヲ協セ此大業ヲ
賛成セント欲スル者甚タ多シ

外臣伏シテ願クハ此奏本ノ趣ヲ允シ賜ワシ事ヲ蕆シ
一タヒ聖斷爰ニ決スル代ハ合衆國政府必ラス之ニ同意
シ大業速ニ端緒ニ就クヲ以テナリ

サイルス、ウェスト、フ井ールト

此ノ貳万六千四百貳拾フランク
内貳百封度引
此納金貳千五百フランク

書記官

覺

一 千七百貳拾貳フランク
但佛國ニ而陸軍刀剱其外製造代

一 三千九百フランク
但瑞西國ニ而諸運送車雛形製造代

一 七百フランク
但同國ニ而架橋器械雛形製造代

一 貳萬百フランク
但同國ニ而新開明山戰野戰砲并ニ附屬車類ヒモ

惣合
貳萬七千四百四拾四フランク

差引残
弐萬三千九百二十二フランク

内弐百ポントハ只今所持致居候間不及拜借候

右者先項渡英之節御願仕置其後夫々エ注文致置候處過日大久保伊藤両副使ヨリ近日御入費多端ニ而可成丈減省シ且約束替相成候分者変約致候様御廳合有之候得共既ニ注文後ニ而且少々故障モ出来候ヨリシテ約束替今更難相成候間何卒前文之金高借用被成下候様希望仕候
以上

追而ミトライマヨース壱挺ベルジック國ニ注文之分ハ横濱到着之上代價拂渡之約束ニ変置候間此段御兼知可被下候以上

十二月廿日

陸軍理事官山田顯義

大副使

御中

一剣又ハ時計　四人分

一陶器塗物類　両人

右者去七月渡英之節願濟相成候分ニ而御産候間適宜之品物御撰被下御渡方御願仕候

一陶器塗物何レニテモ

右者陸軍省書生太田徳三郎瑞西兵學校留學中不容易世話ニ相成候士官ニ付此度大使御着ニ附而者何歟相應之品物為贈度存候間申出候間御僉議被下相應之品物御贈投被下度御願仕候以上

十二月三十日

陸軍省理事官山田顯義

全権大使

来春二月下旬ヨリ伊太利國澳斯利國及魯西亜國ニ罷越
當冬改正之兵務相尋度候間私共同行両人之旅費御渡方
被下度候様御願申候
来正月ヨリ往先三ヶ月分御手當私共両人従行之輩トモ
此度拜戴仕度御願仕候以上
十二月卅日
陸軍理事官山田顯義
大副使
閣下

閣下

第一御附札　願之通佛貨貳千九百貳拾貳フランク拜借被仰附尤田中戸籍頭ヨリ可被請取候事

第二　是ハ伊藤副使ヨリ山田ヘ直ニ御尋可相成候積ニ付別段下ケ札御下知ニ不及

第三　願之趣伊太利其外ヘ被召連候随行之姓名并旅費見積高可被申出尤御手當之儀ハ當四月迄限リ御渡可相成候事

大久保公
伊藤公 博文

私儀旅銀悉ク遣果シ日々之旅用ニ差支候間月給為引當金三百両拜借仕度此段奉願候以上

正月　長野桂二郎

使節公閣下

御下知案

願之趣承リ届候尤田中戸籍頭ヨリ可受取候事

大久保公
伊藤公

當月末迄餘程日合モ有之候ニ附私儀明後十一日當表發
足孛國伯倫府ニ赴キ夫ヨリハルツ、フライベルクヲ經歷
仕再ヒ巴里エ戻リ又直ニ馬塞里ニ至リ當月末又ハ來月
初二日之郵船ニテ本國ヘ向ケ出帆仕度此段何卒御聞濟
被下度奉願候就而者路費御手當相當御下ケ被下度是亦
奉願候以上

正月

長野桂次郎

御下知案

願之趣難被及御沙汰候事

大久保公

伊藤公

司法理事官 佐々木高行

同 随行 岡内重俊

右者去壬申二月米國ニ於而申立置候五ヶ國ノ外墺伊瑞之三ヶ國ニ於テ事務取調罷帰リ候ニ付氣車代御渡シ有之度事

ロントンヨリ往復
パリ迄　英国留学生 西村猪三郎

ベルリンヨリ往復
ペイトルスブルク迄　普国 同 岡田鋭助

ベルリンゟメローズ同所ゟパリ街通リ
ロントン迄同所ゟベルリン迄罷帰ル　同 中嶋作吾

右三人通辨之為メ相雇ヒ往復為致候ニ附氣車代御渡シ有之度事

パリヨリ
ヘーグ迄 往復　明法寮八等出仕 益田克徳

右者追而留着ニ可相成筈候司法理事官江藤新平随行先

着之者ニ候處別段相用候ニ付氣車代御渡シ有之度事

右廉々御評議奉願候

正月九日

司法理事官佐々木高行

全權使節

御中

益田克徳ヲ除之外申出之通會計方エ可相達候事

大久保

伊藤　博文

書記官

租税寮七等出仕
宮内省兼勤

由良守應

來ル十五日當府發軔イタシ和蘭港エ罷越牧畜之事業取調候上兼而被　仰出方有之候期限通歐洲發程左之順路ヲ經候而米國通リ帰朝可致心得ニ御座候尤御馬買入候付而者滯米凡見込ミ五十日分旅費並ニ船車賃トシテ御渡シニ相成様奉願候也

但成ル丈取急キ候者勿論右之日數モ相掛リ申間敷ト存候得共遲速難計場合モ有之候間為念前件之日合願置候事

佛國ヨリ蘭国ヘ之往返氣車賃

同國ヨリ英國エ之舟車賃

一　金四百両也

右者於米國御馬買入之節通辨壱人賄料並臨時入用モ
可有之候間用意金トシテ御渡シ置被下度尤仕拂之儀
者追而巨細ニ可申上候事

正月十二日

大久保公
伊藤公

書記官

一　洋銀弐百元

右者此度米英佛蘭等ニテ御買上取計候書籍雛形等御
用物日本迄之運賃凡見込書面之通御下ケ渡相成候様
仕度此段奉願候也

一月十三日

肥田濵五郎

大久保公　花押
伊藤公　花押

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

書記官

勸農助由良守應

一兼而被仰聞候通歐洲發程之期限モ有之候得共牧畜有
名之國者篤ト取調致度存候處イマタ行届不申且宮内
省御馬御買入方之儀者米國桑港邊ニテ相整ヘ可申ト存候
付夫是相見込九四ヶ月程特命ヲ以滯留被仰付來ル五
月迄歸朝之期御差延被下度此段奉懇願候也

但和蘭　日児曼　以太利　瑞西

右四ヶ國之内者何レモ牛乳製造名高キ處々巡回
致度ニ付通辨致者無之候而者差支候間外理事官
隨行之向同樣之御取扱ヲ以テ通辨壱人分御賄料
御下ケ相成候樣奉願候尤到ル國々ニテ言語ヲ不

一様候ニ付到ル處々ニテ相雇ヒ可申心得ニ御座
候事

明治六年第一月

特命全権大副使

閣下

右由良守應願之通御聞濟被仰付度私ヨリモ奉願候以
上

癸酉正月　大蔵理事官田中光顕花押

特命全権大副使

閣下

各國廻歴之儀者難及沙汰兼而申渡候期限通可及帰朝候
尤米國来港邉ニテ御馬買入之儀者見込通取計可然候事

大使　木戸副使　大久保副使
伊藤副使　山口副使

書記官

私儀當地御用相濟候ニ付来廿一日馬塞里出帆印度海通航帰國仕候積ニ御座候條帰路旅費御渡相成候様奉願上候

以上

正月

長野桂次郎

使節公閣下

大久保公

伊藤公

書記官

二等書記官
林董三郎

工部省御雇英人同道帰朝可致候事

明治六年正月

岩倉公　木戸公
大久保公　伊藤公
山口公

私事

工部省御雇入英人同導帰朝仕候様被仰附候ニ付而者臨時入費モ可有之候間為用意金和金弐百五十圓丈御下渡被下度帰國之上明細勘定相立可申候以上

正月十二日

林董三郎

特命全権使節公

閣下

前文之通願出候處如何取計可然歟御處置奉伺上候以上

書記官

願之通可取計事

書記官

今般工部省御雇ニ相成候英人同道帰朝被仰付候ニ付不日當地發足龍動府エ罷越可申旅費并御手當被下置候様

奉願候以上

正月十一日　林董三郎

大久保副使

伊藤副使　閣下

義而御違之趣ヲ奉承ル十六日當巴里府發程印度海ヲ
航シ帰朝仕候就而者御定ノ旅費其外共御渡有之候様奉願
候以上

癸酉第一月

司法權少判事長野文炳

全權使節

御中

大使　木戸公　大久保公

伊藤公花押　山口公

別紙之通伯林之助ヨリ願出候條御指揮奉伺上候也

正月十二日　　書記官

伊藤公閣下　閲届ヶ

願書

大島鑛山助同行帰朝候儀更ニ御吟味被下従前之通リ英國留學致度段之願書也

別紙之再應願出候條如何取計候而宜歟奉伺上候以上

正月十二日　　　　　書記官

大副使公閣下

難聞届

別紙ト八内海忠勝通辨入雇入候事也

正月十六日達ス

岩倉公　木戸公　大久保公

伊藤公　山口公

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

先般被仰付置候事務早々取調當年中帰朝可致旨兼知仕
候然處私共當春佛蘭西到着以來日夜孜々勉強何卒勅旨
萬分一ヲモ習学仕度存候得共事件重大容易ニ取調渇候事
不能此上如何様勉勵仕候トモ當年中ニ而取調相濟セ候
目的相立不申候間此段先以御届仕置候ニ付情實御汲察
之上再度之御沙汰被下度希望仕候頓首

申十月

山田顕義

原田一道

全權大使閣下

尚々冨永冬樹ヘハ英國ニテ別段御達相成候趣ニ候間
別段願面不差出候得共同様之儀ニ候間此段御兼知置
被下度候

渡六之助岩下長十郎太田徳三郎儀ハ先頃御届仕置候
通此日ヨリ銘々目的之學科之為メ夫々入校之都合致
置候間一同ニ歸朝被仰付候儀ハ顯義ヨリ絶而御斷仕
度是亦再度之御沙汰被下度御願仕候以上

御附紙案

山田少将儀者格別之譯ヲ以テ當四月マテ滞留之儀
聞届候原田大教授ハ外並同様期限之通リ歸朝可致
候且其他隨從之面々者期限通リ入校又者歸朝取計
其段可申出候尤内壹人通辨之為残シ置候事兼リ届
可申事

岩倉公　木戸公　大久保公

伊藤公　山口公

當正月中取調御用向為相濟帰朝可致旨去ル十一月下旬
御達面承知仕候ニ付御達之通リ相心得精々勉強仕候得
共何分正月中取調向不相濟候間尚壱ヶ月余延期被仰付
度段以口上奉願候處御聞届難相成旨被仰聞承知仕候就
而者早々帰朝可仕候間右旅費并ニ船賃等御下ヶ渡相成
候様仕度此段奉願候也

正月十九日　肥田製作頭為良　花押

大副使

御中

願之通可相渡事

私儀兼而被仰付置候絹製造取調之儀ニ付英國製造場取
調相濟申候間「レオン」ヲ初メ「イタリヤ」國ヘ罷越取調仕度
依而旅費大凡見込ヲ以テ佛金六百フランク御渡被下度
奉願候

正月十三日　野口冨蔵

大久保副使
伊藤副使
閣下

當十二月期限中ニ御座候得ハ御許可有之候方ト存候

博文

カヒテーンエニヤン氏エ　紅白大巾縮緬弐匹
カヒラーンビエートヤール氏　紅白紋綸子弐反
リユーテナンクルテス氏　同
スーザンタンダンシユラン氏　同
コロ子ルトワイエール氏　金入天鵞絨壱巻
コンマンダンシヤノワン氏　同
セ子ラールエルツヲーグ氏　紅白縮緬弐匹
コロ子ルフルーレー氏　大和錦色琥珀弐巻
右之通過日御願申置候振進物イタシ度ニ付幟ニ請取申候以上

酉正月

全権大使

山田顕義

閣下

書記官

先般御願仕置候佛國ヨリ伊太利伊太利ヨリ澳地利澳地利ヨリ魯国魯國ヨリ佛国迄旅行費用私并ニ同行通辨壱人分御渡方被下度御願仕候以上

酉正月　　山田顕義

全權大使

閣下

大久保公　花押

伊藤公

書記官

御沙汰通帰朝仕候間私并ニ原田冨永三人巴里斯ヨリ馬
里塞迄之旅費并ニ御手當馬里塞ヨリ横濱迄之船賃及御
手當等御定則通御渡被下度御願仕候以上

酉正月　　　山田顯義

全權大使
　　閣下

大久保公花押
伊藤公

書記官
長与秉継

私事帰朝差迫色々諸拂向キ之為メ入費モ相累候條留守官禄引當正二貳ヶ月分於當地拜借被仰附候様奉願候也

正月廿一日

全権大使

御中

大公 花押

伊公 花押

山田陸軍理事官顕義

過日御願申上ノ旅費小割右者如左ニ御座候間私並原田一道冨永冬樹三人分御渡方被下度候

巴里ヨリ「マルチ子」マルチ子ヨリ「サンゴタール」ヲ越シ「フロランス」迄フロランスヨリ「ローヲン」ローヲンヨリ「ナツフル」ナツフルヨリ「ベニース」ベニースヨリ「ビエンヌ」ソレヨリ「モスコー」ソレヨリ「サントペートトラスボルグ」ソレヨリ「ロンスタット」ソレヨリ「ベラン」ソレヨリ「パリス」迄

壹人前凡二千七百十九フランク四十サンチーム」

右者大概ニ見込ニ而御座候間萬一不足之節者不

旦高御渡被下度余分之節者御返納可仕候
来ル四月迄御手當被下度相願候右前ハ私并ニ隨行原田
留承三人分ニ而御座候是亦前条同時御渡方可被下候
過日差上ノ書面中佛國府ニ瑞國士官エ送リ物之処素ヨ
リ公然之遣物大使御帰朝之上日本政府ヨリ直ニ御遣被
下度御願仕候然ル處相互之交誼上徒ニ沈黙シテ帰去ヲ
告ル忍サル所以有之此段者大久保伊藤両副使エ御頼談
申置候通ニ御座候間何卒相應之物品御下賜被下度御願
仕候萬一御規則モ有之御下賜難相成候ハヽ相應之
代金帰朝之上陸軍省ヨリ返納可仕候間品物之儀者宛ニ
角御渡方被成下度御願仕候當國「ミニストルトラケール」
及其外當政府ヨリ附属致呉候士官エ告別之節是迄ニ厚
情ヲ謝センカ為メ一書ヲ見送リ昨春来當陸軍卿之懇意并
ニ諸士官之深切ニ依リ陸軍諸規則之大概ヲ學得事満足
無極候我々帰朝之上速ニ此旨ヲ
天皇陛下奏聞之上改而公然之謝禮ヲ為スヘシト書認メ
度候處此書者私ヨリ「ミニストルトラケール」ニ可差遣候
哉鮫島中辨務使ヨリ可差遣候哉或全權大使ヨリ御遣相
成候哉御伺仕候

尚々御存ニモ可有之候得共當國ニ而陸軍士官ヲ他
國士官ニ附属セシムルヿ旧来無之ヨシニ而此度之
処素ヨリ特別之懇意ニ而士官ヲ附属セシムルヿニ
御坐候間此段御承知置可被下候

正月十三日

全權大使

閣下

岩公　具視　　木公　花押

大公　花押　　伊公　花押

山公　花押

初條者通辨壱人同行之外ハ難聞届候二條物品贈リ方者申立通相渡可申候謝書之儀者鮫島公使方ニテ為取扱可申事

右奉伺候

都兒格ノ儀ハ歐洲名國トハ其政俗法教トモ迥ニ逕庭御
座候ヘトモ數十年来修好結盟互ニ往来致シ殊ニ千八百
五十六年巴里會盟以来別テ交際モ密ニ相成候ハ申上候
迄ニモ無之候右體殊政異教ノ國ヲ以テ結交同盟候事其
交際振大ニ御國ニ彷彿候場合モ可有之随テ同國従前現
今外人取扱向ノ模様實地取調候上御國御交際上ニ於テ
御叅攷可相成廉モ可有之ト兼々存込罷在候間先頃米
國御滞在中粗志願ノ趣申上候通各國御歴聘相濟候後両
三月モ引残リ彼國ヘ罷越其邊實況見聞仕度奉存居候處
米英御滞在モ存外期日相延此上各國御巡歴相成候節ハ
餘程ノ時日相掛リ可申ハ勿論従テ御入費モ不少既ニ理
事官随行ノ向帰朝被命候位ノ事ニ付両三月タリトモ私
共引残罷在候儀如何可有之哉ト心配仕候就テ勘辨仕候

處不肖ノ私共殊ニ言語モ相通シ不申候處辱クモ御召連
被下置候ハ舊幕以来數年外務ニ從事仕居交際實地ノ場
合ヘ聊心得罷在候ヨリ條約御談判等ノ節萬一ノ顧問ニ
モ被為備候御深意ト不顧菲才濫竽奉任陪随罷在候處
條約御談判ノ儀米英兩國御引合振ニテハ最早御歸朝後
ノ事ニ相決シ且馬関償金等從前ノ御交際ニ関渉仕候御
引合筋モ大槩ハ片付候姿ニモ被存候間此上各國御巡歴
中ハ私共於テ別段ノ御用モ有之間敷奉存候間當府御用
相濟候ハヽ書記官ノ職務御免被下置外務理事官ノ名義
ヲ以テ右都児格國ヘ被差遣彼國交際ノ摸様實地取調候
様被仰付被下置度奉願候左候ハヽ私共職掌上ニ於テ尓
後御用取扱候為ニモ都合不少被存且御歸朝後條約改正
御談判ノ為ニモ聊御叅考ニモ可相成廉モ可有之哉奉存
候右可然被思召候ハヽ右趣意ヲ以テ當國在留同國公使
ヘ引合方鮫島中辨務使ヘ被仰談被下置且理事官同様通
辨人雇方ヲモ御許容被下度此段奉願候也

十一月廿日　田邊太一

岩倉大使
大久保副使
木戸副使
伊藤副使
山口副使

各閣下

文部中助教

近藤鎮三

今村和郎

右ハ今般帰朝可致之処御用ノ儀有之候條田中文部大丞ヘ御達有之度候事

酉正月　　　鮫島辨理公使

木戸副使閣下

右之通鮫島辨理公使ヨリ申越候ニ付承合候処文部省於テモ別段差支之筋モ無之哉ニ相聞候間田中大丞ヘ相達シ右ノ両人トモ鮫島辨理公使方ヘ為引渡候様申付候方可然歟御評議ヲ相待候事

木戸副使

大使公

大久保公

伊藤公

山口公

文部理事官随行

近藤鎮三

今村和郎

右ハ此頃御相談申上候通鎮三儀ハ鮫島公使方ニ於テ附属人少ニ付テ御用為相辨申度和郎儀ハ當國ノ東洋學校ニ於テ所望致候段兼テ當政府文部卿ヨリ鮫島方ヘ依頼有之候ニ付可相成儀ニ候ハヽ両人共在留被仰付度段鮫島公使ヨリ申立有之事實無余義存候ニ付文部理事官ヘ承合候處引殘候テモ差支無之趣ニ付テハ本文ノ通取計申度此段更ニ及御相談候也

別紙ノ通リ左院議官議生ヨリ願出候條御指揮奉伺上
候

正月廿三日　　書記官

岩倉公
木戸公
大久保公　各閣下
伊藤公
山口公

小室少議官儀ハ自力ヲ以留學相願已ニ本邦ヘ伺中ニ付
他同様ニハ難相成ニ付追テ本邦ヨリ御差圖有之次第處
分可致其餘ハ願ノ通拝借被指許候事

一英金一千三百七十二封度
一佛金四萬五千フランク
右金額我々所持罷在候テハ不用愼ノ儀モ有之龍動巴里斯両府開閉店致居候亜米利加「ホウルスイクリ並ニ「アヒレンシイ」リノ両店ヘ為替取組相預ケ置候處當十月十一日西洋十一月十三日右両店トモ廃類ニ及ヒ為替一切相閉然ルニ我等儀ハ別ニ有餘ノ儲金モ無之右為替ノ融通相塞リ候テハ目下内外ノ資用相迫リ事實難澁至極ニ有之依之去々月下旬英國龍動府ニ於テ英金二千八百封度拝借奉願候處一千二百封度拝借被仰付難有奉存候御蔭ヲ以テ諸般教師ノ給料並ニ我々旅舘ノ代料等難默止廉々ハ相辨申候其後猶又将来ノ目的相立公私ノ費用等篤ト算計仕候處道路久遠費用ノミ相嵩ミ充分

節倹ヲ加候ヘトモ前文拝借被仰付候金額ニ候間何等ノ目的モ相立不申進退尚又當惑ノ至リニ有之再應奉歎願候テハ幾重ニモ奉恐入候ヘトモ萬里外ノ異域ニ滞留罷在乍恐其筋ヘ御依頼申上候ヨリ外更ニ活路モ無之候間将来ノ旅費筭計致シ槩略左ニ書載更ニ奉歎願候

一四千両

當巴里斯府ヨリ壓瀾海ニ航シ亜米利加地方ヲ過キ更ニ又太平洋ニ航シ御國内迄ハ路程ニテ一人前七百両ノ旅資無之テハ不相叶ノ由右ハ蒸氣車蒸氣船ノ代料ト且暫時ノ滞留ニテ旅館ノ止宿料ヲモ一日或ハ二日ヲ以テ筭計致シ候ニ有之然ルニ我々儀ハ亜米利加地方ニ於テ久々滞留ノ目的ハ無之候ヘトモ可然都府ニ於テ十五日或ハ廿日間ハ滞在取調度儀モ有之候ニ付テハ前文ノ金額ニテハ何分筭當相立不申尤一人前ハ百両ニテ節倹ヲ加ヘ候ヘハ諸費用ハ打混シ相辦可申カト奉存候就テハ我々同行五人此金高四千両

一三千両

各國視察ノ儀ハ我々奉命ノ所可然ニテ既ニ當秋初魯西亜並ニ獨逸連邦ノ地方ヘ巡行仕候ヘトモ水陸各國ノ政治基本大同小異ニ有之仍テ先有名ノ國治ヲ取調其上ニテ各國ノ異同ヲ取調候ヘハ其利害モ自ラ明晰可致カニ奉存候間今暫ノ處ハ英佛両國ノ間ニ滞在罷在右質問卒業ノ上各國ヘ巡行仕度諸費用合筭仕候處節倹ヲ加ヘ一人前六百両ニテ相辦可申カニ奉存候

一旅籠料一日ニ付一人前此金四両

右二ケ月ノ積リ此金二百四十両
一諸費用一日ニ付一人前此金二両
右二ケ月ノ積リ此金百二十両
一蒸氣車料一人前百四十両
一各國罷越候向ニ於テ諸簡問並ニ交際ノ費用一人前此
金百両
総計此金六百両也
一千両
本院為御用書籍其他ノ器械等相求度尤書籍ノ儀ハ英
佛ノ地ヲ本ト致シ相集居且書肆ニ公賣致候書籍モ相
求候儀有之候ヘトモ大半ハ官府ヘ準備相成候内ヨリ
相求度最早官府ヘ遂示談漸々手ニ入候手順ニ取極ノ
置未タ全數ハ不相分候ヘトモ諸器械打混シ英地ニ於
テ四百両餘佛地ニ於テ四百両餘其他各國ニ於テモ一
百両餘相求度就テハ此金一千両
一龍動巴里斯府間ニ滞留ノ期限ハ只今ヨリ向フ二ケ月
計リニテ諸取調モ結局相付度目的ニ有之右費用ハ過
日竜動府ニ於テ拝借被仰付候金額ニテ相辨可申カト
奉存候
前三條合シテ此金八千両
右概略算計仕候處此金額八千両ニ相嵩リ別ニ減省可
仕様モ無之且我々取調ノ儀トモ最早卒業ノ目的相附
キ候ヘトモ未タ結局トハ難申今中途ニテ休業致シ候
テハ首尾不整條理混淆遂ニ無益ノ取調ニ相歸シ遺憾
至極ニ奉存候就テ過日拝借被仰付今又歎願申上候ハ
幾重ニモ奉恐入候ヘトモ御國内ニ於テ厄難ニ相罹リ

候トハ情實相異リ進退去留トモ資用ノミ相嵩リ他ニ
御依頼可仕儀更ニ無之前後痛心ノ至リニ有之候間前
條記載申上候通リ此金額八千両更ニ拝借被仰付被下
候道ハ無之哉奉歎願候條何分宜敷御吟味被成下度深
重奉願候以上

明治五年癸酉正月廿日

少議生 安川繁成
中議生 鈴木貫一
少議官 小室信夫
少議官 高崎正風
中議官 西岡逾明

大久保大藏卿殿
伊藤工部少輔殿

新島約瑟事理事取調御用相濟候ニ付随行御免ノ儀本人
ヘ相達申候也

酉正月廿八日

文部理事官 田中不二麿

特命全權使節
御中

文部理事一行来二月五日ヲ以テ當洲発程歸朝仕度此旨
御聞届有之度奉存候也

酉正月

文部理事官田中不二麿

特命全権使節

御中

文部理事一行来二月五日ヲ以テ當洲発程歸朝可仕候條
旅費金等夫々御渡シ有之度奉存候也

酉正月　文部理事官田中不二麿

特命全権使節

會計課御中

田中不二麿
長與專齋
中島永元
近藤鎮
内村良藏
今村和郎

和蘭コトレブト府滞在

由良守應

右當國ニ於テ牛乳製法分析等ノ諸器械買入方致シ候處
損シ痛ミ物ニ付自身持歸リ可申心得ニ御座候處是ヨリ
蘭白佛英米等ヲ通行致候ニ付テハ其國境ノ改モムツカ
シキノミナラス殊ニ米國ニテハ税金モ相掛リ候由ニ付
全權使節理治ノ官員ニ相違無之トノ手形御下渡シ相成
候樣尤此手形有之時ハ荷物改メ等モ無之由ニ付是非至
急御下ケ被下度此段奉願候也
但肥田某儀ハ持参有之候事此例ニ倣ヒ早々御取扱相
成候樣奉願候以上

明治六年第一月廿四日

パスポルト書記官ヨリ相渡シ尤右ヲ證トシテ運上所ニテ税ヲ免ル種ト成候筋ニハ相成不申候旨書送リ候事

田中戸籍頭

随行ノ内川路寛堂杉山一成両人和蘭國ヘ差遣シ堤防ノ方法研究其後實地ノ都合ニヨリ一成ハ再ヒ使節方ニ復シ寛堂ハ改暦四月中歸朝可被申渡候事

各國回歴中通辨等ノ為メ書記官ノ内ヨリ會計掛兼務申付御用向差支無之様可申達候間此段御心得置可有之事

肥田製作頭

和蘭ニ於テ取調半途ノ事務相濟次第英國ヘ罷越鉄道狭線新発明有之趣ニ付寺島特命全権公使ヘ承リ合セ其方法ノ得失篤ト研究ノ上改暦三月十五日ヲ以テ発航歸朝可有之候事

原田陸軍大教授

右事務取調向未タ結尾ニ至ラズ事件ハ改暦四月中ヲ限
トシテ勉勵研究ノ上右時限ニ発航歸朝可有之候事

大島鑛山助

右改暦三月中獨乙國「フライベルク」「マンスヘルト」「クラウ
スタル」ノ鎔鑛場ヘ罷越實地研究ノ上右期限発航歸朝可
有之事

野口富藏

右絹製造取調トシテ「リオン」及ヒ「イタリー」ヘ罷越筈之處
病氣ニテ出足及遅緩兼テ申渡置候時限ニテハ難相濟ニ
付改暦二月中ニ研究為相濟候様改テ申達候間右期限発
航歸朝可有之事

正月　　特命全權大使

私儀先年陸中國鹿角郡小坂村ニ於テ銀山創見仕獨乙國
鑛山地「フライヘルク」「マンスヘルト」「クラウスタル」等ニ
於テ千八百六十年頃迄取行居候仕法ニ基キ右小坂村ニ
於テ鎔鑛場取建懸御一新後御手業ニテ継普請仕居候内
私儀理事官随行被仰付候ニ付獨乙國ヘ罷越候上ハ實地
篤ト見聞仕罷歸大盛ニ至リ候様改正可仕ト奉存居此度
「フライベルク」ヘ罷越實地見聞仕候處近年鎔鑛ノ法一
變仕六十年頃迄ノ仕法ハ廢棄ニ至リ當今ノ方ハ大槩兩
三年以来ノ新法ノ由ニテ未タ書籍ニモ無之候ニ付彼地
ニ於テ當分鑛山師一人相雇「フライベルク」「マンスヘル
ト」「クラウスタル」ノ鎔鑛場ヘ同道仕右新法悉ク相調書類
繪圖雛形ニ致シ御國元ヘ持歸リ直様實地ヘ施用仕度奉

存候随テ私儀尚二ケ月滞在被仰付且鑛山師一人二ケ月中雇代旅費取調諸入費等相見込英金八十ポンド御預金相成候様仕度奉存候此段格別ノ御評議ヲ以テ願ノ通リ被仰付被成下置度奉願上候

正月　　大島鑛山助

書記官

奉伺

近日當府御発輙白孛等ノ各國御巡回中ハ可成丈随員御減少ノ御趣意ト拝承仕候ニ付左ノ廉々奉伺候

第一

當府御発程翌日ヨリ川路寛堂杉山一成両人ハ和蘭國ヘ罷越堤防ノ方法實地取調為仕度奉存候事

第二

光顕并富田命保両人ハ各國御巡回中會計事務ノ為陪従仕可申就テハ各國ニ於テ通辨等ノ為書記官ノ内一人會計掛兼務被命度候事

正月廿六日　　戸籍頭田中光顕

大久保　公
伊藤　公

私儀絹製造取調トシテ當國ノ内「レオン」及ヒ「イタリ」國ヘ罷越申度候段先般奉願候處其節早速御許容ニ相成候ニ付即時ニ出立可仕心得ニ有之處不圖両手ニ腫物相発シ昨今ハ一身ノ起居運動モ不自由ニテ今ニ出立モ出来兼甚難澁罷在候尤全快ノ上ハ速ニ発足可仕心得ニ御座候ヘトモ豫テ御許容相成居リ候日限マテニ迚モ難相濟支ニテ甚以當惑仕候依之奉恐入候儀ニ御座候ヘトモ右期日ヨリ猶廿日ノ日延御差許相成候様仕度仍テ此段奉願上候以上

正月廿日

野口富藏

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別紙之通原田一道ヨリ歸朝延期之儀願出候處如何取計
可宜歟御指揮奉伺上候

書記官

大久保公

伊藤公

諸國御巡回被為済御歸朝ノ節ハ必随従可致心得ヲ以テ大縣既往ヲ推シ御巡行ノ日程ヲ考ヘ短クモ酉年中滞留ノ見込ニテ日夜勉強取調居リ候處不計モ先般申年中ニハ欧洲発程歸朝可致トノ御沙汰實以愕然仕候是迄莫大ノ費用寸効ナキヲ懼レ昨冬十月書面ヲ以テ是迄取調ノ事務御定期通相済セ候事難相成ニ付延期願出置候處此度是非トモ布告ノ期限通発程可致トノ御下ヶ札誠ニ恐縮仕候元来私儀本邦発程以来兵器製造ノ法建築兵科ノ結構且餘暇アラハ軍律ノ調ヲ目途ト致シ夫々手ヲ下シ居候處即今歸朝致シ候テハ半途落下ノ姿ニテ何ノ益モ無之中々費用ニハ相成リ不申若シ始ヨリ酉年中ノ見込ミナレハ目途モ一科ニ歸シ一小年ニテ首尾結末付候事

ヲ取調可申筈ナレ𪜈前文申上候通即今半途ニテ相止候テハ折角是迄取調候事泡沫ニ属シ可申國用ニ相立不申其邊宜敷御勘考奉願上候是迄取調候件々別書差上候間篤ト御検査可被下是迄ノ勉励如此ニ御座候如此終始不貫ノ者ニテハ儘打捨候テハ素ヨリ國用ニ相立不申且是迄費シ来リ候多分ノ金員盡ク無益ノ費用ト相成候ノミナラス教師ニ對シ候テモ面目無之次第深ク御汲察可被下素ヨリ随従多人數御費用モ多端殊ニ竜動府ニテハバンクノ意外ノ災難且滞留願出候者定メテ多人數可有之一定公平ノ御所置ナラデハ難被為成事御尤ノ次第ニ奉恐察候ヘトモ國ノ得失モ難黙止候間是迄私ニ買入候品々盡ク費拂之ニテ多少ノ日月相支可申其時間ヲ以テ一事ナリ𪜈結末ニ至候迄取調申度必ス公費ヲ仰キ不申候間御許容可被下為國伏テ奉願上候也頓首再拝

正月十九日　原田一道

全権大使

閣下

私儀獨乙國フラーイヘルク、マンスヘルト、クラウスタル、ノ鎔鑛場ヘ罷越實地研究ノ上改暦三月中歸朝可仕様御達ニ付獨乙國ニ於テ鑛山師一人相雇ヒ鎔鑛法新発明等ノ儀委細取調書類繪圖雛形ニ致シ持歸申度奉存候間右鑛山師一人二ケ月中雇代旅費取調諸入費トモ大凡相見込英金八十封度御預ケ金相成候様仕度奉存候且又獨乙國取調濟次第佛蘭西ヘ罷越マルセールヨリ発航歸朝可仕候間夫迄ノ御手當旅費トモ此度御渡被下置候様仕度奉存候此段奉願上候

明治六年正月

大島鑛山助

願ノ通聞届候尤田中戸籍頭ヨリ可被請取事

正月廿五日　特命全権使節

大久保公

伊藤公

書記官

私儀獨乙國ニ於テ鑛山書鑛石見本類取調持歸申度奉存候間御國元官禄二月三月二ケ月分爰元ニ於テ取越拝借被仰付被下度此段奉願上候

正月　大島鑛山助

前文ノ通願出候條御指揮奉伺上候也

私儀獨乙國ヲラーイヘルクヽマンスヘルトヽクラウスタルヽ

ノ鎔鑛場ヘ罷越實地研究ノ工改暦三月中發航歸朝可仕

候様被仰渡ノ趣奉畏候右為御請如此御座候

明治六年正月

大島鑛山助

先般為取調尚四月中迄滞留被仰付難有仕合奉存候乍不
及如何ニモ盡力可仕候就テハ是非トモ右期限迄教師相
増軍律ノ一科ハ結末ニ至ル迄取調申度幸ヒ此節人物モ
相當ノ者見當リ一ケ月二百五十フランクニテ教授致シ
呉候積リニ御座候三ケ月合テ七百五十フランクノ費用
御立被下度奉願上候尤右精算受取書等夫々取置差出可
申候也頓首再拝

正月廿六日　　原田一道

特命全権大副使

閣下

御指図案

船ノ雜費假借會計掛ヨリ可被受取事
但シ陸軍省定額金ノ内ヨリ追テ償消可有之候也

過日川路寛堂杉山一成兩人和蘭行ノ儀ニ付相
願置候文面粗漏ニテ趣意分明不仕儀可有御座
ニ付尚又左ニ相認奉伺候
近日當府御発軔白亭等ヨリ和蘭國マテノ間御巡歴中ハ
私隨行富田命保一人ノミニテ成文御用相辨使節諸公和
蘭ヘ御立越相成候節杉山ニ出會ノ上佛亭白亭等ノ精算仕
可申夫ヨリ後ノ各國御巡歴中隨行人員ノ儀ハ同國ニ於
テ實地ノ經驗ニヨリ更ニ相伺可申候
一川路杉山兩人白亭等ノ各國ヘ隨行不仕當府ヨリ直ニ
和蘭ヘ罷越候ヘハ光顕命保兩人ニ於テ一層事務ノ繁忙
相增候儀ハ必然ニ御座候ヘトモ川路杉山兩人ニ於テハ
使節諸公和蘭國ヘ御立越相成候迄ノ時間治河ノ取調モ

出来仕加之白字等ノ各國巡回ノ滊車代其外費用現ニ省減仕候譯ニ付一挙両得ト奉存候決シテ外理事官同様米之四月ニ至リ候ヘハ和蘭ヨリ直ニ歸朝仕候趣意ニハ無御座候尚紙上ニテ御了解難相成儀モ御座候ハヽ御會議ノ節被為尋度此段奉願候已上

酉正月廿四日　　田中光顯

大久保公
伊藤公
閣下

使節ヨリ

随行嶌田命保一人ニテ難相濟事ナレハ杉山儀堤防取調相濟候迄川路付添居リ右取調時限改暦四月限ト見テ杉山ハ随行ニ復シ川路ハ歸朝シテ如何可有之乎尚戸籍頭見込可申出候方也

田中大藏理事官ヨリ別紙ノ通見込書差出候ニ付奉入御
覽候也

酉正月廿五日　　　書記官

大久保副使

伊藤副使

閣下

改暦四月限ニテ川路寛堂歸朝如何ノ儀御尋ニ付左ニ見込奉申上候

自此至ル處各國貨ハ品ヲ異ニシ書ハ文ヲ同フセス候儀ニ付既往ノ會計ニ比較仕候時ハ將来ノ事務却テ混雜仕可申ト想像仕候然ルニ此度精美簿ノ儀ハ御歸朝ノ上ハ新聞紙等ヲモ公布可相成ハ必然ニ付成丈精密ニ區分相付ケ置申度奉存候間若一時ノ入費ヲ厭ヒ候爲ニ減員ニ及ヒ之カ爲ニ疏漏ノ儀生シ候テハ不都合ニ付別紙ニモ申上置候通使節諸公和蘭國ヘ御立越相成候節杉山寓田両人ニ於テモ川路歸朝仕候テモ差支無之段申出候上ハ川路歸朝ノ儀可伺出ト奉存候依之此段奉申上候以上

酉正月廿五日

大藏理事官田中光顕

使節諸公閣下

書記官　礼之

文部理事官随行

近藤鎮三

今村和郎

右鎮三儀ハ獨逸語出来候者無人ニ付鮫島公使方ニ於テ附属ニ致シ御用為相勤申度和郎儀ハ兼テ當國ノ東洋學校ニ於テ人物所望ノ趣當政府文部卿ヨリ鮫島方ヘ依頼有之候儀ニ付右方ニ差遣シ申度依之可相成儀ニ候ハヽ取調御用モ相濟候事ニ付兩人トモ滞留被仰付度段鮫島公使ヨリ申立有之事實無餘義次第ニ付文部理事官ヘ承合候處兩人トモ引残シ置差支無之候趣返答有之候就テハ鮫島公使申立ノ通取計申度存候依之更ニ及御相談候

也

正月廿八日

木戸副使

大使公

大久保公

伊藤公

山口公

私儀是迄御随行申上候處何分性質魯鈍難堪其任ト心付候間當職御免被仰付度即チ別紙宣書御手元迄返上仕候就テハ来月初旬發航ノ佛國郵船便ヲ以テ歸朝仕度奉存候何卒此度ノ儀ハ是非トモ御聞届被成下度此段謹テ奉願候也

鹽田三郎

岩倉大使公

木戸副使公

大久保副使公

伊藤副使公

山口副使公

名閣下

願ノ通承届候尤佛國滞在中ハ是迄ノ通御用可相勤候事

鹽田篤信

依願被免一等書記歸國申付候事

但佛國滞留中ハ是迄ノ通リ可相勤候事

明治六年正月廿日　特命全權使節

同文言

右之通リ御達相成候間為御心得申進候也

月日　書記官

會計掛御中

鹽田三郎儀一等書記官被免歸國被仰付候處右ハ渡邉洪基ノ先例モ有之候間旁歸朝迄ハ依舊書記官相應ノ御手當被下候筋ト奉存候依之奉伺候

正月三十日　書記官

右ノ通大久保伊藤両副使ヘ相伺候處許可相成候ニ付御手當御渡方可然御取計有之度存候也

書記官

田中戸籍頭殿

明治六年正月三十日　於佛京巴里

以書状啟上致候然ハ我使節一行回歷ノ費用トシテ此程英金貳萬封度御差越相成慥ニ落手致シ候會計掛リ田中戸籍頭ヘ付與致シ候様尚此先ノ費用凡見積高可申進旨御申越ニ付篤ト思考致シ候處是ヨリ順歷中ノ時間モ未タ聢ト治定不致候ニ付槩略ヲ以テ見積候ニ尚英金三万封度程モ相掛リ可申ト存候右ニ付三万封度ノ金額兼テ使節ノ為ニ御備置有之候様致シ度依之此段可得御意如此ニ御座候以上

伊藤工部大輔　花押

大久保大藏卿　同

吉田大藏少輔殿

再白其内御歸朝相成候節ハ受取方ノ手續等使節滯在ノ所ヘ御知セ被下候樣致シ度御依賴致シ候

是ハ山口副使ノ草案ニヨリ相達ス 尤使節御中合ハ相濟候趣山口公ヨリ御口達ニ付別ニ留シニ不出

御國司法省ヘ法律家雇入候儀兼テ正院ニ於テ伺濟相成即チ今般兩人丈差向キ御雇入相成候儀ニ致決議候間右人撰方等都テ同省ヨリ出張ノ官員ヘ御打合ノ上可然御取極有之候樣致シ度存候依之此段可得御意如此御座候也

明治六年二月一日　特命全權大副使

鮫島辨理公使殿

右ノ通リ法律家雇入ノ儀鮫島辨理公使ヘ相達候間諸事同人ヘ打合セ御取極可有之候也

特命全権大副使
司法省出張
官員御中

兼テ被仰聞ノ通當月限リ欧洲発足可致心得ニ御座候處牧畜ノ取調モ結末相付ケ兼候ニ付来ル十五日迄佛到着ノ積リ日限御差延被下度此段奉願候也
但シ御馬車牽馬ノ儀ニ付少々見込モ有之候ニ付左ニ申上候
各國ノ帝王馬車牽馬ハ「ザノ」馬ヲ以テ第一等ノ者トス既ニ英ノ官厩ニ繋キ有之候白毛ノ馬是ナリ右ハ先年孛國ヨリ「クイン」ヘ被送候由右ハ獨乙國「ハナウ」トカ云フ所ニテ産スルトノ事ニ付同所迄行候テ其價及其情實モ取調追テハ此種馬御買入ノ上
皇國ニ於テ蕃殖為致御規式等ノ節ハ御馬車牽馬ニ備度ト奉存候ニ付同國迄馳走致シ候上佛國迄到着

ノ日合本文願ノ通来ル十五日迄御聞済ノ程出格ノ
御取扱奉希候以上

明治六年第一月三十日　　租税寮七等出仕
宮内省兼勤
由良守應

難取次旨ヲ以テ本書差返ス

再願ノ趣モ有之通辨ノモノ御賄被下置候事

二月四日

野村靖
内海忠勝

岩倉公
木戸公
大久保公
伊藤公
山口公

日耳曼官費留學生
山口縣士族
青木周造

外務一等書記官心得ヲ以テ伯林公使舘勤仕可致候事

静岡縣士族
長田銈太郎

外務二等書記官心得ヲ以テ巴里公使舘勤仕可致候事

佛國官費留學生
静岡縣士族
栗本貞次郎

二等書記官申付候事

一等書記官
福地源一郎

都児格阨日多両國交際振刑法裁判等實地為取調差遣候
尤右御用為相濟歸朝ノ上委細外務省ヘ可申立候事

一等書記官
鹽田三郎

四等書記官
池田寛治

右願ノ通書記官差免歸朝申付候事
但在佛中ハ此迄ノ通御用相勤可申事

二月分

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

拝借金願書

一佛貨二千五百三十フラン九十サンチドム也

右ハ私儀壬申五月中佛國公使館在勤被仰付候ニ付同月ヨリ癸酉四月マテ一ヶ年分御手當トシテ金八百圓本邦外務省ニ於テ受取着巳ノ後佛貨ニ換ヘ前書ノ高「ジヨイントナショナルアジエンシー」ヘ預ケ置候處去冬十月同店破産オヨヒ目下困迫罷在候ニ付當地ニ於テ右ノ金高何卒拝借被仰付被下度此段奉歎願候已上

癸酉正月　外務中録兼松直稠

大久保副使

伊藤副使

両公閣下

英貨七十五磅拝借可差許事
但シ會社閉店ニ付拝借相願候者ト一様ノ手續ヲ以
テ可取計事

博文

書記官　太一

一等書記官
福地源一郎
希臘都児格陀日多三國各國交際振并刑法裁判等實地為
取調差遣候尤三ケ月ヲ限リ右御用為相濟歸朝ノ上委細
外務省ヘ可申立候事

四等書記官
池田寛治
御用有之佛國巴里府ヘ三ケ月間滞在申付候事
但右御用相濟次第歸朝可致候

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

岩倉公
木戸公
大久保公
伊藤公
山口公

私儀御用暇見聞ニ區々仕難有仕合ニ奉存候然ル處當歐
醫學ノ序目等素習ハ既ニ変則致居候故當惑仕且未熟ノ
拙技今日ニ難御用立耳辛苦罷在候就テハ舊師伊藤大典
醫ヘ質問仕前路百分ノ一ニモ都合仕且歴驗少シク的認
致シ候半ト奉存候甚自由ケ間敷奉恐入候ヘトモベルジ
ム并和蘭御滞在中ハ接近ノ場所ニ付右方ヘ罷越居御用
ノ節早々参上可仕折柄寒冷ノ節急病等モ少御座候間格
別ノ御特許伏テ奉願上候

二月八日　福井順

右ノ通申出候間奉伺候

書記官

白耳義着ノ上ニ候ヘハ可然存候　具視

岩倉公
木戸公
大久保公
伊藤公
山口公

和蘭國取調向相濟次第英國ヘ罷越當時新発明鉄路ノ儀見聞可致旨先般被仰付奉畏候然ル處同様ノ製造ニテ尚便利ノ建築法「スウヰツルランド」ニ有之由承リ及候間同國ヘ罷越右鉄路ノ儀取調候方可然哉奉存候間此段奉伺候且御聞届相成候ハヽ通辨ノ者一人此迄ノ例ヲ以テ雇入仕度是亦御聞濟ノ程奉願候也

二月十一日　　肥田濱五郎

右ノ通申出候可否奉伺候

書記官 太一

二等書記官

小松肅盛

博覽會御用為取扱維也納表ヘ差遣候事

但先着ノ事務官申談総裁到着ノ上ハ受指圖可相勤候事

岩倉公

木戸公

大久保公

伊藤公

山口公

太政官

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

狛林之助野口富蔵両名工部省理事官随行拝命以来月給何程ツヽ被下候哉御承知被成度旨致承諾候右ハ別段月給ト申ハ無之御用中一日英金一磅ツヽ御賄代被下ノ儀ニ有之候右及御答候也

二月六日

會計掛

書記官

御中

先般文部省ヨリ米國博士モリリー儀大學教頭トシテ雇入度旨正院ノ允許ニ基キ御評議ノ上其通リ取計置候處同人儀家族同行致候ニ付テハ外並御雇外國人ノ例ニ准シ別段装治料トシテ墨銀五百圓被下度且又教育ニ付文部省要用ノ書籍等買入持越候ニ付其代價トシテ墨銀二百五十圓御渡被下度旨申立事實無餘義次第ト存候間右二件ノ金高此地ニ於テ取替渡シ方ノ儀取計ヒ置公信ノ序其旨政府ヘ達シ文部省定額金ノ内ヨリ大藏省ヘ返納ノ運ヒニ相成候テハ如何候ヤ文部理事官モ既ニ出発ノ後ニ候ニ付此段微職ヨリ及御相談候也

二月七日

木戸孝允

二月十日會計掛リヘ達ス

書記官　太一

マニーネジ牛ゼー　價貳百封度

右ハ測量羅度分秒劃度ノ羅械ニテ兼テ探索仕居候處幸
ヒ見當リ候ニ付御買上相成候様奉願上候也
但陸軍省定額金ヨリ御差引ニ致度奉存候

原田一道
山田顕義

特命全權大副使

閣下

額ノ通相渡追テ陸軍定額ヨリ差引可致事

一簡啓上致し候陳ハ狛林之介野口富藏両名儀工部省理
事官随行拝命以来月給毎月何程出方相成候ヤ至急御報
知有之度此段及御掛合候也

二月五日　　在英

公使館書記

大使

書記官

御中

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

本間清雄儀昨壬申年博覧會事務掛リ被仰付候處其前ヨリ同人儀新紙幣増製造監督申渡置專ラ右事務勉勵罷在候折節今度博覧會掛関澤明清澳國ヘ到着別紙ノ通申越候處清雄儀ハ右御用勤兼候付テハ獨乙國語ニ通候者無之候テハ博覧會速ニ運ヒ申間敷ト存候間右事務掛ノ儀ハ御一行中ハ一名ヘ御下命有之候様致度候也

二月六日　　鮫島　辨理公使

全權大副使閣下

以書状啓上仕候然ハ本間清雄儀兼テ於當地博覧會事務掛被仰付有之筈ノ處同人儀目今紙幣製造御用取扱候由ニ付別紙ノ通申越候右ハ如何ノ行違ニ候哉於當方同人出張不致候テハ指向キ事務局用意方御用指支候間至急出張可致旨更ニ御申渡有之度此段及御引合候也

二月二日

関澤明清

鮫島辨理公使殿

別紙敷島ヨリ申越ノ趣ハ同人ヨリ内話有之博覧會方ハ是非トモ獨乙語ヲ解シ候者無之候テハ難相成儀ハ必然ニ有之付テハ小松濟治儀獨乙國御用濟ノ上ハ澳國ヘ指遣シ候積リ兼テ治定致居候ヘトモ獨乙國ノ儀ハ青木周藏儀既ニ拝命致御用向御指支ノ儀モ有之間敷ト存候ニ付小松濟治儀ハ唯今ヨリ直チニ博覧會ノ方ヘ相廻シ可申此段敷島ヨリ示談ニ付右ノ通申付候テ可然哉及御相談候也

追テ使節書記官中獨乙語ニ達シ候者無之候テハ不都合ニ候ハヽ獨乙國ニ於テ相應ノ者有之モ哉ニ承リ居候

岩倉大使

木戸副使殿
大久保副使殿
伊藤副使殿
山口副使殿

書記官 太一

當國外務省官員ニテ「ランベル」ト申者御旅館中諸物品取締リ方相心得候者ニ付去ル西暦十二月十八日私共ヨリ内談ヲ以テ小使一同ノ取締ヲ始メ日用ノ雜務等相頼置候處頗ル廉直ニ盡力仕呉レ随テ無益ノ冗費モ減省仕候譯ニ付内談及候當日ヨリ御發軔ノ日來ル十六日マテ六十一日ノ間一日佛貨凡四十五弗ト見積リ二千七百五十弗ノ金高相當ノボントト御買上ノ上御會釈トシテ被差遣候樣仕度此段奉伺候也

明治六年二月十三日　田中戸籍頭

全權大副使閣下

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

英貨八十磅被遣可然哉奉伺候

先達テ罷出候節ハ種々御厄介相成奉謝候然レハ近々白耳義ヘ御渡ノ由御着ノ上ハ御住館無御失念被仰聞度願上置候扨先日パークス當國出立致候ニ付テハ不遠御國ヘ着致シ可申就テハ英國政府ニテノ談判書ハ御國外務省ヘ最早御差出相成候哉若シ未タ御差出無之候ヘハ至急御差出シ有之候様致度儀ニ御座候右心付候ニ付及御報告候

一維也納博覽會理事官著ノ上周旋方トシテハ小松書記ヘ被命候處或ハ風聞ニ同人近々出立ノ様ニモ承リ候ヘ共理事官ノ人數不相分候テハ旅宿ノ用意等モ難出来存候御地ニハ已ニ右人數相分リ居候哉且同國ヨリ日本ヘ参リ居候公使ガリーセ過日日本ヨリ歸國掛ケ當館ヘ立寄

博覽會ノ儀ニ付用向有之候ヘハ何ナリトモ取計可申旨
中間維也納ヘ罷歸居候間小松同國ヘ相越候ニ付テハ閣
下方又ハ拙者ヨリ同人ヘ一書相達候方可然存候間右御
都合及御問合候也

癸酉二月十二日　寺島宗則

大副使公
各閣下

十三日返書遣ス
但伊藤公御承知

二等書記官
小松燾盛

右澳地利國博覽會事務官兼任ノ心得申付候事
但シ支度次第早々同國ヘ發向可致候事

太政官

外國教師四五名御雇入レノ儀奉申立候處右四五名ノ教師ハ如何ノ科目ニ當テ如何ノ事務整理被為致候見込ニ候哉其邉篤ト取調相成居可申明細一應委詳申立有之度然ル上ハ可及評決ノ旨蒙御達奉畏候右ハ去年本院ヨリ正院ヘ申立ノ趣モ有之且我々當今取調候事務ニ於テ私ニ愚考仕候儀モ有之別紙ニテ申上候間可然御指揮被成下度奉希候以上

壬申十月

少議生安川繁成
中議生鈴木貫一
少議官小室信夫
少議官高崎正風
中議官西岡逾明

謹テ宇内ニ並立スルノ
勅旨ヲ熟考スルニ所謂並立トハ文明ノ治ヲ致シ相互ヒノ権利ヲ以テ交際ヲナサヽレハ真ニ並立ノ称ニ適スルヲ得ンヤ今日欧洲各國トノ御交際ニ於テハ喩ヘハ無識者ノ有識者ト交ルカ如シ彼ニ及ハサル者多シトス然ルニ今無識ヲ恥テ有識ニ交ラサル時ハ畢生其智識ヲ擴充スルヲ得ンヤ抑欧洲ノ文明ト称スルヤ内治郡縣ノ制人民一致シ諸事規則アリテ綱ヲ挙レハ目張ルト謂ツヘキナリ民法邑法商法訴訟法ヲ始トシ議員ノ選挙諸學藝兵制及ヒ統計運輸ニ至ル迄一切精密ナラサルハナシ其ヲ以テ人才輩出シ國富ミ兵強ク遂ニ各國同等ヲ以テ互ニ相交際スルヲ得ルモノ畢竟其權力相均シキヲ得レハナ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

リ令
皇國ノ治績ヲ顧ルニ右ノ諸件総テ歐洲ノ如ク整容ニ至ラス名ハ並立ト称スルト雖モ其實ハ未タ並立ニ至ラサルナリ故ニ本院決議ノ要旨ニ於テハ彼ニ及ハサル所以ノ者ヲ反省シ其制度文物ヨリ一切ノ庶務ニ至ル迄其善ナル者其美ナル者ノ我民情ニ愜ヘテ治體ニ裨益アル者ヲ折衷採用シ以テ並立ノ實功ヲ表セントス是即今日大目的トナスヘキ事

辛未八月

右ハ正院ヘ伺ヒ濟ノ上本院中ヘ公告相成タル儀ニテ我々儀此節御用筋取調候モ本文ノ旨趣ヲ體認罷在候事ニ御座候

字内ニ並立スルノ

勅旨ヲ奉スルニ當リテハ宜シク歐地文明各國ノ制度ヲ講求シ其宜シキヲ採用シテ以テ舊政ヲ改革シ開化ノ域ニ進マシムルニ有之然ルニ其風俗人情自カラ我ト相異ナルアレハ專ラ其方策上ニ存スル者ヲ以テ我實際ヘ移シ施行スル時ハ圓鑿方枘ノ弊ヲ免レサル者アリテ立法ト司法ノ間ニ於テ多少ノ沮碍ヲ生スヘシ仍テ今反覆之ヲ攷ルニ歐洲各國ノ諸事務ニ明瞭ナルモノニ就テ之ヲ顧問シ彼ノ實際ト我ノ實際トヲ比照融通シ且我民情吏務ニ適スルヤ否トヲ講求セサレハ如何ソ千古不抜ノ制度ヲ確定スルヲ得シヤ是故ニ今日維新ノ基礎ヲ建ントスル時ハ歐地各國ノ内ニ於テ其國法民法租税法統計司法等ノ條件ヲ分チ其實際ニ渉リタル有名ノ外國人七八名許リモ御雇入レノ上各々分課ヲ以テ顧問ニ備ヘ置キ

議員ノ内某々ハ何省掛リ某々ハ府縣掛リト是亦各々分
課ヲ立或ハ書籍ニ就キ或ハ教師ニ質シ其課内ノ事務ハ
成丈明晰ニ推究致シ且其分課ヲ以テ二三名宛西洋各國
ニモ航海致其實際ヲ目撃シ業既ニ教師ヘ質問シ或ハ又
書籍ニ就テ研究スル者ト比照シテ益其智見ヲ擴充セハ
立法ノ職盡スト謂ツヘキ歟若シ如此ナラスシテ一旦制
度確定ニ至ル𪜈恐ラクハ實際施行ノ上ニ於テ沮碍アル
ヘケレハ随テ令シ随テ改ムル樣ニ相成立法ノ権自然他
局ニ移リ堂々タル左院モ終ニ長物ニ属スヘシ是今日ノ
着眼トスル所ニシテ伏テ工裁ヲ乞フ所以ナリ

辛未九月

右正院ヘ上陳ノ處教師御雇入ノ儀御許容爲相成事ニ御
座候

我々儀御國内発程ノ節両議長ヨリ口頭ニテ左ノ通リ
本院ニ於テ外國教師御雇入レノ儀ハ正院ニ於テ最早御
許容爲相成儀モ有之且本院ノ章程御確定ニ相成法律ヲ
議スルハ本院ノ主務ニ於有之ハ外國ノ制度法律及ヒ諸
規則等ニ明晰ニ無之テハ片時モ不相濟ニ付歐地着ノ上
特命大使ノ指揮ヲ受ケ獨乙ニ於テハ學問ニ達スル者一
名佛蘭西ニ於テハ法律ニ達スル者一名嘆咭ニ於テハ經
濟ニ達スル者一名亜米利加ニ於テハ開拓ニ達スル者一
名篤ト人選致シ御雇入レ相成候樣取計リ可申事
右ハ口頭ニテ沙汰有之且正院ヨリモ右ノ趣委細ニ御掛
合爲相成ト奉存候
我々前書ノ旨趣ヲ以テ目的ト致シ是迄取調罷在候ヘ𪜈
本邦座工ニ於テ推考仕候ト實地ニ於テ目撃仕候ト形勢

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

殊ニ相違致シ僅々制度ノ末ニ趨リ一二ノ異同ヲ指摘シ各國政治ノ得失ヲ論究致シ候モ遂ニ是皮膚ノ論説ノミニテ脳ヲ採リ髄ヲ捨ルノ訳ニ無之歟ト奉存候抑欧地各國ノ治乱興廃ハ支那及ヒ東洋各國ノ治乱興廃ト相異ナリ凡ソ支那ノ治乱興廃ハ兵権ノ平分スルト偏重スルトニアリ故ニ其制度ヲ建ル勉メテ其兵権ヲ抑制ス欧地各國ノ治乱興廃ハ人民権利ノ分界其當ヲ得ルト否ラサルトニアリ故ニ其制度ヲ建ル政府ノ権ヲシテ甚重カラシメス又人民ノ権利ヲシテ甚タ軽カラシメス恒ニ中庸ノ宜シキヲ制ス往時ポロネルノ覆滅近時ドルコノ擾乱其源由ヲ尋ヌレハ人民権利ノ分界ニ於テ其條理ヲ失候由當今欧洲各國ニ於テ最モ能注意致候モ人民権利ノ分界ニシテ建國ノ大典モ之カ為メニ往々増減スル者アリ制度モ之カ為メ往々改革スル者アリ且議政行法ノ両大権ヲ區別シ審判事務ノ體裁ヲ明ニシ且地方政治ニ於テ大小ノ事体ヲ正シ租税徴賦ノ法則ヲ詳ニスルカ如キハ亦人民ノ権利ニ関係セサル者ナシ是欧洲各國國治ノ大綱ニシテ素ヨリ符契ヲ合スルカ如シ其政事ヤ兄弟ナリト称候テモ可然歟奉存候然レ𪜈欧洲各國各其習俗アリ沿革アリ制度ノ末ニ至リテハ一二ノ異同アリ或ハ郵便事務ヲ以テ内國事務省ニ合スルノ制度アリ或ハ殊ニ郵便事務省ヲ置クノ制度アリ其他彼ヲ合シ此ヲ殊ニスルノ制度ハ有之候ヘトモ其合スルヤ復再ヒ殊ニスルモ知ルヘカラサル者アリ其殊ニスルヤ復再ヒ合スルモ亦知ルヘカラサル者アリ然ルニ彼此ヲ比較致候トモ其施政ノ得失ヲ論究致シ候ト申譯ニ無之亦豈本邦ニ於テ裨益ス

ル所アランヤ是故ニ其源由ニ溯リ制度ノ由テ起ル所ヲ
講求ヒハ他日朝廷ニ於テ建國法御取建相成ルニモセヨ
民選議事院等御取建相成ルニモセヨ万分ノ一ハ裨益中
上候廉モ可有之歟奉存候仍テ小室少議官安川少議生ハ
英國滞在英國議政行政両權ノ區別民權ノ分界及ヒ議院
ノ結構等取調居西岡中議官高崎少議官鈴木中議生ハ佛
蘭西滞在佛國議政行政両權ノ區別民權ノ分界佛國九省
事務ノ分權地方政治ノ體裁國議州議邑議諸院ノ分權ト
建國法等ヲ取調又傍ラニ「スタテス、チツキユ」ノ結構モ講
求仕中候右ノ次第ニ付教師御雇入レノ儀モ第一ニ各國
ノ建國法ニ熟達致シ候人選擇仕度右建國法ニ熟達致候
者必ス各國ノ政治諸法律ニ相達可申候第二ハ議院ノ體
裁ニ熟達致候人右議院ノ體裁ニ熟達致候者民權ノ分界

ニ於テ必ス明晰ニ可有之第三地方政治ニ熟達致候人第
四ニハ經濟ノ事務ニ熟達致候人等選擇仕夫々事務整理
被為致候ハヽ本院ノ御用相辨シ可申歟奉存候之ヲ要ス
ルニ寧ロ數名ニシテ瑣々タル小學士ヲ得ンヨリハ一兩
名ニシテ博學卓識ノ士御雇入レ相成候儀本院ノ御為メ
且朝廷ノ御為メ歟ト奉存候制度ノ末ニ拘ハリ假令其得
失ニ明瞭タル者コレアルト雖モ夫ヲ憑據トシ文明政治
ノ源由ヲ了得スル儀ニモ無之候ヘハ教師ヲ雇ヒ其課目
ヲ當ルモ其大本ヲ以テスル是今日本院ノ急務歟ト奉存
候以上

壬申十月

西岡中議官

高崎少議官

小室少議官

鈴木中議生
安川少議生

書記官太一

右ノ通申出候教師御雇ノ儀御許可ニ相成候ヤ将又御許
議御座候ヤ奉伺候也

廿五日

岩倉公
木戸公
大久保公
伊藤公
山口公

両人御雇許可ノ儀御口達ニ相成リ候由

二月十五日　太一記

太政官

奉 山口副使命

近来當館御用モ追々多端ニ相成人少ニテ始終御用差支出来候間大藏省検査寮杉山一成同官ヲ以テ當館勤仕被命候様致度且又今般更ニ伯林府ヘ公使館ヲ設ケ候ニ付青木周藏一等書記ノ心得ヲ以テ勤仕致居候ヘトモ何分右一人ニテハ御用間ニ合兼候間文部中助教近藤鎮三外務二等書記生ノ心得ヲ以テ伯林府公使館在勤被命候様致度候何レモ御協議ノ上早速御沙汰有之候様致度候也

二月九日

鮫島 辨理公使

全権大副使閣下

岩倉公

木戸公

大久保 公
伊藤 公
山口 公

杉山在勤ノ儀ハ御用差支候間難被聞届候事

書記官 礼之

先日鮫島公使方ニ御引渡相成候元文部理事官随行今村和郎儀弥當府東方國語學校教授試補トシテ相雇度候ニ付差支ノ有無相尋候段文部卿ノ望ニ應シ外務卿ヨリ鮫島公使ヘ書翰相贈リ候依之鮫島方ヨリ差支無之返答致シ可然哉ノ旨申来候ニ付御指圖書相添此段奉伺候以上

二月十日

御差圖

今村和郎儀當國東方國語學校ノ教授試補ニ相雇度段文部卿ノ望ニ應シ外務卿ヨリ貴館ヘ差支ノ有無尋越シ候趣承知致候右ハ一統恊議ノ上ニテ本人引

渡候事故本文ノ通御取計可有之候也

二月十日

特命全權大副使

數島辨理公使殿

岩倉公

木戸公

大久保公

伊藤公

山口公

本官ヲ免可為數島申立ノ通事

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/